



読字 原田 親

No. 657

2012/1/5

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒110-0001 東京都千代田区
西船場1-1-1 東武ビル3階

日中友好協会
岡山支部
〒700-8258
岡山市東区3-8-30 514
TEL:0861272-3010
郵便番号1100
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒712-8014
倉敷市連島中央1-8-1
(宮地方)
TEL/FAX:0860 446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhong.biz/
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



あけまして おめでとごうございます



私は、望年会のあいさつで、過剰生産恐慌、閉塞感と内閣打倒の話をしました。その場にふさわしくないことを承知の上で、あえて難しい挨拶をしました。

前のNHKインタビューで拘りをもって使っていた言葉です。ソ連によるチエコ介入(1968年)事件が起こりました。加藤さんは、それまで社会主義に希望をもっていました。プラハ以降はいくらやつても埒が明かないだろうと思いましたが、現実を変えたいという雰囲気はあるけれども、どうにもならない。職はあり食べられるけれど、先が知れている。生活全体を変えなければならぬという閉塞感です」と述べています。そして、ベトナム戦争、世界の学生運動の高揚期にふれ、背景の根本は不平等です」と断言する。資本主義の発展の波の中に、必然的に現れる茫漠とした、しかし非常に強い閉塞の感情なのです。

加藤さんの死の直後に民主党政権が誕生しました。しかし、この閉塞感が強まるばかりです。

判とともに提言、展望を示すことが重要であろう。加藤さんは、憲法を守り、暮らしに生かす、そしてこの閉塞感「を打ち破るために、日本の若者よ、しっかりせ！新しい社会をめざして、改革のために立ち上がってくれ！」と呼びかけているように思えるのです。老人と青年との同盟のために、今年もよろしく願います。

いま、世界経済は過剰生産恐慌の相を呈しています。物を作っても売れない状況が続いています。国民の所得が減って、家計が冷え込んでいます。雇用を増やし、給料を上げて、家計を応援するしか、他に方法はありません。

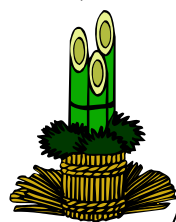
閉塞感」という言葉は、加藤周一さんが亡くなる数ヶ月

2012年 元旦
日中友好協会岡山支部
支部長 宇野武夫

1月と2月のもよおし

- 1/7 (土) 民主会館2階、AALA 学習会と新年の集い。
第1部 2:00~4:30 講演「アフリカ民主化の波と革命」
第2部 5:00~8:30 新春の集い ¥1,000
- 1/9 (月) さん太ホール 1:30~映画「書道ガールズ」¥800
- 1/11(水) 10:00 日中岡山支部理事会、1:30 新聞発送、民主会館 6:30 太極拳新年会 広珍軒
- 1/14(土) 1:30~ 平和大会(沖縄) 報告会(岡山から23人) 県労会議室
- 2/2 (木) ~8日(水) 日中岡山支部のパネル展示、岡山県国際交流センター 1階
- 2/5 (日) 平和の波、無料映画会
「東京物語」「カティンの森」中央公民館
- 2/11(土) 建国記念の日を考える集会
- 2/12(日) 原発ゼロをめざして、鹿久居島の経験など、多彩なもよおし
- 2/25(土)・26(日) 日中西ブロック会、北九州市で
- 2/29(水) 1:00 前進座公演 岡山市民会館

頌春 2012年



日中友好協会倉敷支部 支部長 大森久雄

節目の年が続く。去年は辛亥革命100年であった。今年も日中国交正常化40年である。そんなとき、各自の日中友好立志の初心を振り帰るのもよい。わたしのそれは唐詩選、史記項羽本紀に中島敦の李陵である。中島の李陵解釈はきれいなすぎるかもしれぬ。漢書、後漢書を読み返さねばならぬ。史記も読み切れないのに、このうえどうか。いや、夢は追い続けよう。今年もよろしく。

ニホン人は、なぜ、ニホン語をおしえることができるのか? ③

竹内和夫

宿題やりましたか? 気がついたことは? 習う人3人として(3人寄れば文殊の知恵):

- A さん: 辞書の形が、ルウツ(ク)でおわるとき(ツ)になるみたい。《なるほど、そうだ》
- B さん: でも「見る」はミツタにならないのは、なぜ。《いい発見だね》
- C さん: 「書く、聞く」だって、カッタ、キツタにならないぞ。《確かに! 「行ツタ」は、めずらしい例外です》

では、ルでおわる動詞をしらべてみよう。

- A: 食べる、服を着る、席を変える
- B: よく出来る、ポチがやって来る
- C: 勉強する、家から出る



さて②例文の走る、乗る、取ると、いま3人が出した7つの単語をくらべてみよう。

たとえば、動詞の語幹(中心的意味をになう部分)にナイ(否定の語尾)をつけてみよう。

- (3例) 走る→走らない、乗る→乗らない、取る→取らない
- (7例) たべない、きない、かえない、できない、こない、しない、でない

どうですか? (3例)と(7例)のちがいは?

- A: (3例)では語幹のおわりのルをラにかえてから、ないをつける。
- B: (7例)のほうは語幹そのままにないをつける。
- C: ほとんど・すごくちがうが規則的だ。

(ツ)の発音図6枚は新年の宿題です。



日中岡山のホームページURLが変わりました。

新しいURLは、http://rizhong.biz/

中国帰国者のみなさんと 文化の秋を楽しむ

11月18日、中国・四国中国帰国者支援・交流センター主催で、スポーツ・文化の秋を満喫しようとして健康増進交流会を開催しました。

長岡・高島・新保の団地などから23人が参加しました。伊藤夫妻や大元さん親子、篠原小百合さんなど懐かしい人々に会いました。

午前中は、広島県帰国者と笠岡のカプトガニ博物館で合流し、大型水槽のカプトガニの生態を観察したり、成長過程や歴史を展示物や大型スクリーンで見学しました。

益田百合子さんや山根夫妻と館内を回りながらスタンプラリーを楽しみ、童心に帰った気分になりました。恐竜公園では、実物大の復元模型をバックに写真を撮りました。

午後は、雨も上がり倉敷美観地区を散策しました。NHK朝ドラ(カーネーション)に出てくる中橋や倉敷アイビスクエアの広場などを見学しました。高杉久治さんが広場を見て中国の親族が住んで居るところにも同じような空間があり、太極拳、書道、楽器の演奏、歌を歌う人など、みんなが集うて、楽しんで「情景を思い出しながら、なつかしそくに話してくれました。

最後は、バスの駐車場近くにある中国物産展の閉店セール(3.5割引)があり、多くの帰

国者が買い物をしていました。

交流支援センターの職員の配慮ある対応で、帰国者のみなさんとともに楽しい一時を過ごし、広島・岡山へとわかれて帰りました。

日中岡山支部 小林軍治



カプトガニを見る山根さん

小林軍治の

フランス(法国)滞在記 ⑧

8月8日から12日までの5日間、スイスのグリュイエール城とフランスのシャモニーからのアルプス観光を楽しみました。リヨンのレストランを車で出発し、国境に近づいた時にミカエル君が警備が厳しいので写真を撮るのをやめるように」とわたしに注意しました。スイスはEUに加盟していないので、入国手続き(スイス国内での運転許可証を車に貼る)をし、午後ホテルに到着しました。

ホテルから外を見渡すと、高い丘に緑がいつぱいで、どこどこに牛舎があり、いまにもアルプスの少女、ハイジ(注)があらわれそうな風景が、広がっています。澄み切った青空に向けて大きく深呼吸をし、スイスに

来た実感しました。

その日は、ホテルの地下道を通って隣接する温水プールに行きました。プールなので泳ぐところと思っていたが、地元の人々は、温泉がわりに湯につかり、のんびりと時間を過ごしていました。心は、プールが大好きで大はしゃぎで泳ぎました。ジジとババと、ババの間で(3m×5m)を、水面に顔をつけたまま行ったり来たり、息継ぎ出来ませんが、その成長ぶりにはびっくりしました。

夕食のときに、私たちのテーブルを担当した若い女性の、はにかんだような表情(笑顔)が忘れられません。

翌日は、気温が10度前後と聞き、暖かくしてグリュイエール

年の瀬のおもひげ

高島教室(火曜日・土曜日)教室合同では、帰国者のみなさんから、講師への一年間のお礼の気持ちを込めて「ぎょうぎょう」をいただいたとの提案がありました。12月2日、全員参加(講師7人・帰国者8人)で楽しくぎょうぎょうづくりをしました。生地や具材の作り方、包み方など帰国者のみなさんに教えてもらいました。いつもながら男性帰国者の調理の丁寧さがいいことには、わたしは感心しうらやましく思いました。

今回も、高杉久治さん、篠原明男さんが買い出しから調理・盛り付けまですべてリードしてくださいました。

また、中国の正月料理や日本のおせち料理など話題も盛り上がり、中国語と日本語が飛び交いながらも、いい会話練習になりました。

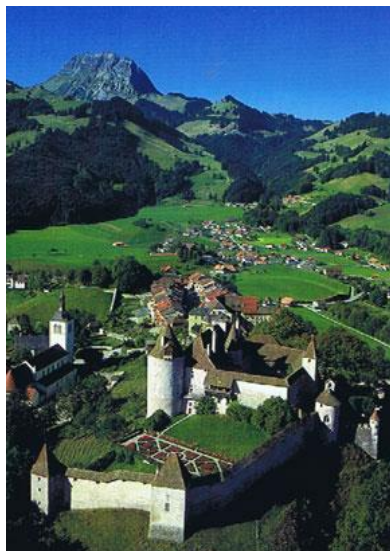
日頃からお世話になっている公民館の職員さんも招待して、茹で上がった熱々のぎょうぎょうをみんなでおいしくいただきました。



高島教室 山崎千賀子

帰国者のみなさん、ありがとうございました。

城の見学に出かけました。この城は、ガイドブックの表現を借りれば「緑あふれるプレ・アルプを見渡す小高い丘・その上」



(註) スイスの女流児童文学者シュペーリの小説。(1880年~81年刊。) スイスの山中に祖父と住む貧しい少女ハイジの物語。(広辞苑より)

日中岡山支部の望年会

谷川浩文

忘年会ならぬ望年会へ事務局長に誘われ、私も今回初参加した。今年は、東北大震災という未曾有の大災害で多くの犠牲者を出した。私たちはこの年を決して忘れてはならない、来年こそは良いことが有ることを願うという意味で協会は望年会と名づけたのであろう。

当日、民主会館の2階に上がると、歓声と料理のいいにおいで会場は熱気ムンムンで満員御礼状態であった。ずらりと並べられた料理の中には水餃子やおでん、ホルモンうどんなどがあり、参加しなかつた方には正直気の毒に思っ

た。望年会には各界から様々な方々が出席され、硬い挨拶ながらも、普段私には接する機会がない方々ばかりなので、興味津津に聴いていた。中国から引き揚げてこられた方たちによる歌やハルモニ演奏には、強く心を揺さぶられ、同胞の方たちからもそれに併せて口ずさむ姿を目にし、なんともいえぬ居た堪れない

気持ちになった。戦争をすることの愚かさを知った。

一人ひとり自己紹介をしていく中で、いろいろな人生模様を垣間見ることができ、外部との交流が少ない介護業界では、決して得ることができないことを、この望年会で学んだ。最後に会場をすこく和ませてくれた馬先生の実弟の英飛さんの瓢箪と竹でできた楽器を使つての演奏に、皆さんは大変うっとりとした表情で聴き惚れ、雲南へ誘(いざな)つてくれたような心地になった。

私も、来年からは日中友好の為に出来ることから何でも始め、その輪を波紋のように世界へと拡げたいと切に誓い、会場を後にした

次回の新聞発送作業は
1月11(水)午後1時半
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方です。

吹林和
内内和
竹内三